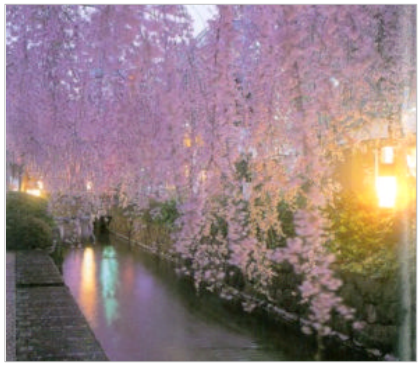
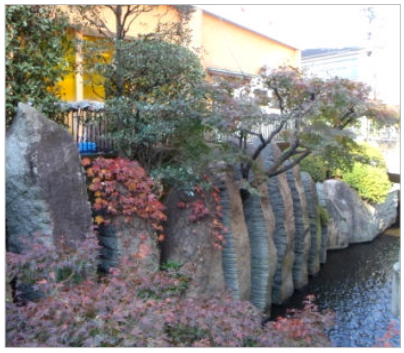
１．はじめに



宇都宮まちづくり推進機構では、約 10 年以上前の発足以来、釜川プロムナードによる中心市街地の活性化について検討を行なってまいりました。

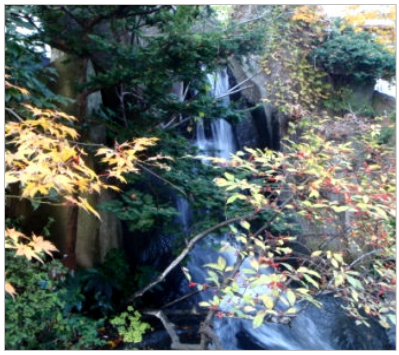
こうした中で、平成 20 年度より釜川活用特別委員会を設置し、釜川を「花で飾る」をテーマに、四季折々に花が咲き、多くの来訪者が散策する魅力的な都市型の回遊式庭園として「釜川百花苑」の検討を重ねてまいりました。

この度、当委員会において「釜川百花苑」の景観計画におけるコンセプト及び植栽による修景の基本イメージをまとめ『釜川百花苑構想』として提案することにいたしました。



釜川プロムナードは、平成 24 年に、河川及び周辺環境整備を含めた大規模改修工事の完成から、20 年を迎えます。 当時、景観デザインに携わった造園家の伊藤邦衛先生によると、釜川プロムナードの景観及び植栽計画のコンセプトは、「都市景観と調和した回遊式庭園」です。

竣工から 20 年経過した現在でも、釜川プロムナードは、宇都宮市の中心市街地にやすらぎと潤いを創出する極めて有効な「景観資源」であり、全国的にも希少な「都市型の環境施設」であります。



釜川活用特別委員会は、『釜川百花苑構想』が釜川プロムナードの景観整備のきっかけとなるべく、魅力的な都市景観の形成及び回遊性の向上に役立つことを期待して、今後も継続的に活動を続けてまいります。

釜川活用特別委員会　委員長　田村哲男

２．釜川プロムナードの沿革

西弁天沼

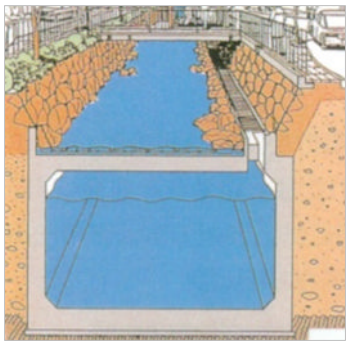
釜川は、宇都宮市野沢町の東弁天沼・西弁天沼を水源とし、市街地を経て中河原町にて田川へ合流する延長 7.3ｋｍ、流域面積 6.4ｋ㎡の一級河川であります。

古くは宇都宮城の防備に重要な役割を果たした河川であり、明治以降は宮染めの紺屋やうなぎなどの川魚料理屋が軒を並べ、大変な賑わいであったといわれています。

昭和 40 年代に入ると、生活排水の流入によって河川環境が急速に悪化すると共に、上流部の急激な都市化に伴い保水能力が低下し､集中豪雨でたびたび中心街の商店や住宅家屋に浸水被害をもたらすようになりました。

宇都宮市では昭和 50 年代初頭より抜本的な治水対策を講じることになり､従来型の治水･利機能ばかりでなく、当時としてはかなり画期的な「都市景観と環境の共生」をめざした新しいタイプの「回遊式の親水庭園」をコンセプトとした、釜川及び釜川プロムナードの整備プロジェクトが開始され、平成 4 年に全国で初めての二層構造河川として完成しました。改修後の釜川は、浸水被害もなくなり、最近の異常気象によるゲリラ豪雨に対しても十分対応できる治水能力を有する河川であります。

こうした歴史を持つ釜川及び釜川プロムナードは、中心市街地を貫流する親水施設として、中心街に貴重な潤いと安らぎを創出するパブリックスペースであると共に、宇都宮市にとって、かけがえのない「水辺空間」であります。



二層構造断面

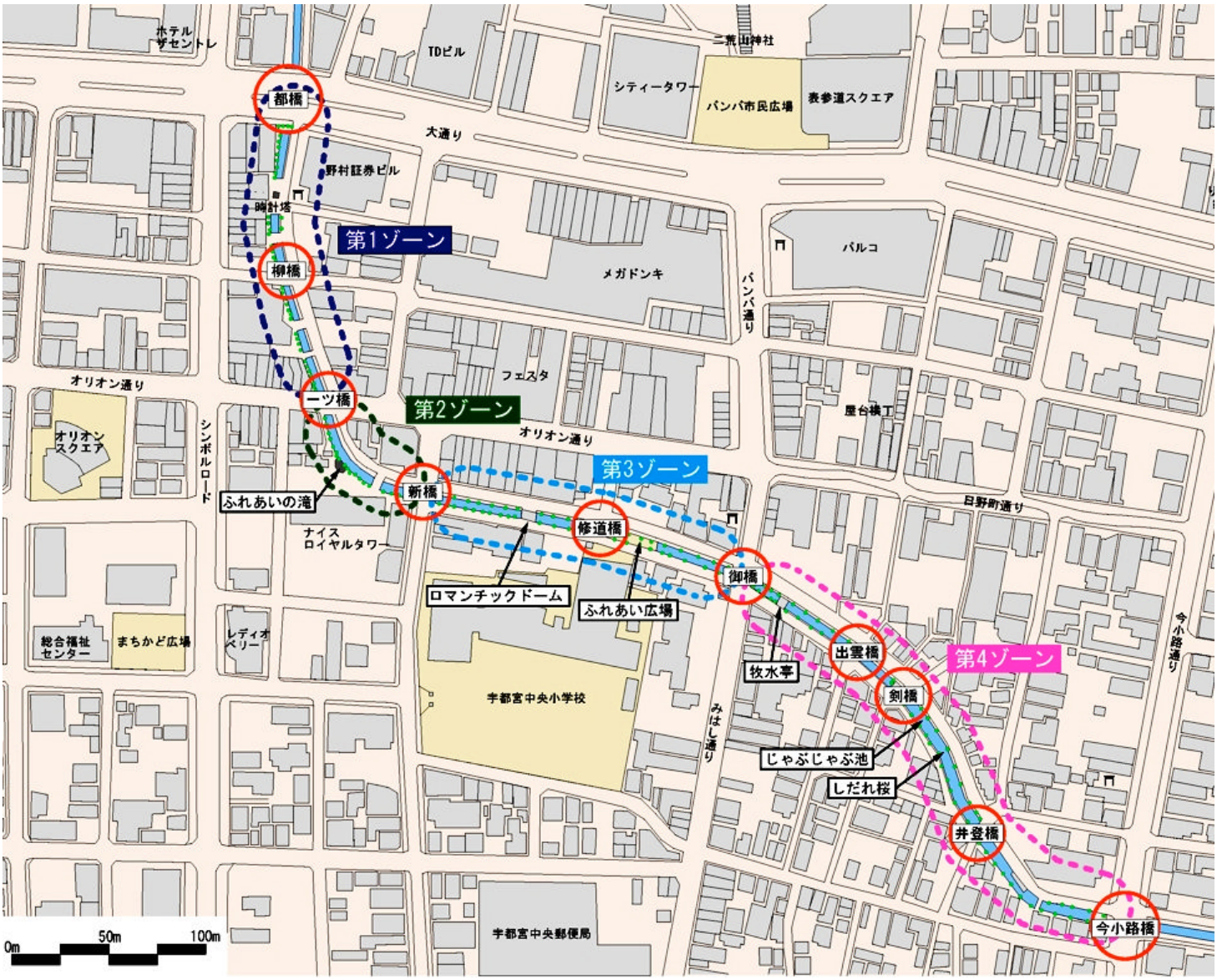
西田橋周辺

じゃぶじゃぶ池

３．釜川百花苑構想の概要

釜川百花苑構想は、中心市街地の都橋から今小路橋までを４つのゾーンに分け、各ゾーンの自然環境や景観特性に適した植栽による修景計画を行なうと共に、釜川の魅力や宇都宮の歴史・文化を基にした景観計画を行なうものであります。(【 景観計画エリア図 】参照。)

景観計画のコンセプトとしては、第 1 ゾーンから第 4 ゾーンに、各々「あじさいの小路」､「滝のある風景」､「賑わい創造回廊」､「歌人の小路」という景観デザインの基本となるイメージコードを設定することにより､「釜川百花苑」における景観計画の基本理念及び修景計画の方向性が、より明解に表現できるようになりました。



【 景 観 計 画 エ リ ア 図 】

■ 景観計画ゾーンのイメージコード

第 1 ゾーン（都橋～一ツ橋）・・・「あじさいの小路」
第 2 ゾーン（一ツ橋～新橋）・・・ 「滝のある風景」
第 3 ゾーン（新橋～御橋） ・・・「賑わい創造回廊」
第 4 ゾーン（御橋～今小路橋）・・・ 「歌人の小路」